

令和5年度 関西福祉科学大学高等学校 学校運営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- ・建学の精神「感恩」の周知と実践。
- ・教学理念「夢と志」の周知と実践。元気、やる気が出て夢中になるものを見出す。
- ・夢と志を育てる“仕掛け”の創造と実践。
- ・基本的生活習慣を身につけ、優れた教養と学力を備えた生徒を育てる。
- ・感謝の心を持った豊かな情操を育み、自立心のある人の育成を図る。

2 中期的目標

1 教育力の向上 学修成果(できるようになる) 修学成就(笑顔での卒業)

- (1)校訓「明朗・誠実・友愛」を生かした人間力の育成
- (2)教育の質向上、学修成果の可視化(〇〇ができるようになる)
 - ・教員のスキルアップ
 - ・わかる授業ときめ細やかな学習指導の実践 (3 時間/週の授業外学習 100%を目標に学習習慣の定着を図る)
 - ・教育デジタル化普及対応
 - ・課題解決型学習の実践 (SDGs推進 自主的エコ活動)
 - ・進路実績の向上
 - ・グローバルな視点の教育実践 (海外語学研修準備)
- (3)課外活動・クラブ活動の充実
 - ・クラブ加入率70%をめざす
- (4)卒業率96%
 - ・入学した生徒全員を卒業させることを目標に、高校生活満足度調査の結果を検証、今後の課題を検討し、改善策を全体で共有する。(延べ数)の合格を目指す。

2 組織安定

- (1)生徒在校総数1,000人(2027)達成推進
 - ・福科大高の特長発信(違いを際立たせる) “やる気と元気を引き出す”&コース特長
 - ・A 基礎(教学姿勢)の共有 実践
 - ・B 選ばれる理由(夢と志がベース)とその“仕掛け(武器)”を携えて
 - ・C 探しに行って 見つけて 育てる 早くから
 - ・全学広報活動“協働”
 - ・Open Campus、Website の質向上
 - ・子息女兄弟姉妹の入学促進
- (2)ニーズに応えるコースの追求

3 施設・設備等の充実 愛用

- (1)生徒本位の施設・設備の整備と愛用(遊休施設活用)
 - ・Learning Commons の増強
 - ・ICT 環境整備
- (2)配慮を要する生徒支援体制の充実
 - ・障害者差別解消法の尊重

4 地域共生 社会に愛され 成長する学園

- (1)地域連携活動の実践
 - ・地域連携公認プログラムの推進
 - ・総合的な探究の時間での取組みを推進
 - ・地域主催行事への積極参加

5 学園総合力の向上(学園ファミリー意識) 各校園の相互協力 尊重 (職員 学生 生徒 園児)

- (1)各校園との連携推進
- (2)内部進学の実施 (学年 30%以上目標)
- (3)藤蔭会活動の活性化 (藤蔭会 80 周年(2025)記念行事の推進)

3 本年度の取組内容及び自己評価

	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	学校自己評価	学校関係者 評価委員会 の評価
1 教育力の向上 学修成果（できるよつになる）・修学成就（笑顔での卒業）	(2)教育の質向上 学修成果の可視化 ・教員のスキルアップ ・教育デジタル化普及対応	・教科の研修や ICT 機器の活用、外部模試の活用方法、生徒のやる気をいかに持たせるかなど学内学外を問わず、様々な場面、機会を通じて研修を進める。	・教科の研修、外部模試活用研修、人権研修など実施すること。	・iPad の使用が2学年にわたり、教員間でもかなり普及してきた。授業等での活用実践報告などの研修を行い、情報を交換しながら ICT のスキルアップを図っている。(△) ・8月に外部講師を招いて人権研修を実施(○)	努力が認められる。(△)
	・わかる授業ときめ細やかな学習指導の実践	・年度当初に各教科・各授業に対し「年間授業計画」を作成する。教科内で確認の上、教務、管理職でも確認のもと授業を進める。各学期終了後、実施内容、進度、考查結果の状況など確認し、次学期に役立てる。 ・授業アンケート(7 月:1 学期期末考查後実施)の結果を基に各教員、教科内で検証「わかる授業」の実践に取り組む。 ・学外の ICT 研修などにも積極的に参加し、公開授業を通し、内容を教科で共有する。 ・3 時間/週の授業外学習 100%を目標に学習習慣を定着させ、学力向上に繋げる。	・授業アンケートの総体平均値が 80 点となること。 ・3 時間/週の授業外学習を 100%に近づけること。	・授業アンケートでの平均が 81.2 点(昨年度 81.5 点、一昨年度 80.2 点)年々平均値は上昇傾向にあったが今年度は横ばい。「わかる授業」がほぼ実践されていると捉えられる。(○) ・授業外学習 3 時間/週(1 日平均 30 分以上)している生徒は、56.4%(昨年度 61.6%、一昨年度59.3%)から落ち込んでいる。進路、教科による早急な組織的な取り組みが必要。(×)	充分評価できる。(○) 家庭への呼びかけも必要。(×)
	・課題解決型学習の実践	・「思考力・判断力・表現力」を育むために、生徒が自ら課題を見つけ、その課題を解決する過程で様々な知識を得ていく学習方法を取り入れる。	・学期に1回は実施	単位数、授業時間数が少なく、定期テストのために、「知識・技能」中心の授業にならざるを得ないことがある。(△)	努力が認められる。(△)
	・進路実績の向上	・進路指導部を中心に進路指導計画を策定の上、各教科学年との連携を基に指導を行う。	・卒業生徒の進路決定率 100%。 ・関関同立 20 名と産近甲龍 80 名以上の合格(延べ数)。	・進路決定率 97.5%(△)(昨年度 97.5%、一昨年度 98.2%) 関関同立 12 名合格 (△)(昨年度 5 名、一昨年度 8 名) 産近甲龍 33 名合格 (×)(昨年度 41 名、一昨年 56 度名) 特Ⅰ・特Ⅱコースも含めた戦略的な取り組みが必要。	生徒の満足する進路決定と進学率の向上を期待する。(△)
	・グローバルな視点での教育の実践	・英語検定を積極的に受験させる。 ・異文化交流や異文化理解できる行事を検討する。	・英語検定を積極的に受験させる。 ・総合的な探究の時間に異文化理解の講座を設ける。	・英語検定年間受験者762名 2級合格 15 名 準2級合格 35 名 (△) 受験者は相当数増えたが、それに見合った合格者の増加がない。合格率をいかに向上させるか、対応策を検討・強化する必要がある。 昨年受験者662名 2級合格5名、準2級41名合格 一昨年度533名 2級合格15名、準2級31名合格	合格率の向上に期待する。(△)
	(3)課外活動・クラブ活動の充実	生徒会と各クラブが連携し、クラブ紹介の方法を回数も含め工夫する。また積極的にクラブ体験を受け入れるようにする。 生徒会行事について見直しを進め、生徒会担当教員で検討の上充実させる。	・クラブ入部率70%以上であること。	・海外青年協力隊を経験している教員の講演会やグローバル体験プログラム、オンライン英会話やイングリッシュキャンプを実施。(○) ・生徒会では文化祭においてユニクロの「服のチカラプロジェクト」に参加し、1年生を中心に古着の提供を呼びかけた。(○) ・8月に中学生を対象としたクラブ体験を2日間実施した。(○) ・クラブ入部率 52.3%(昨年度 47.7%、一昨年度 52.4%) 魅力あるクラブ作り、指導者の育成、生徒会を中心とした働きかけが必要である。(×)	グローバル教育は必要(○) 入部率の向上に努力が必要である。(×)
	(4)卒業率96%以上	卒業率 96%以上を実現する。 高校生活満足度調査(10 月:2 学期中間考查後実施)については、職員会議で結果を報告の後、関係部署で検証し、今後の課題を検討、改善策を全体で共有する。	・卒業率 96%以上を実現する。 ・「学校生活の充実度」の肯定的回答率が 65%以上であること。	・卒業生は283人(入学時304人)、卒業率は93.1%であった。(昨年度卒業率93.0%)(△) ・「学校生活の充実度」の肯定的回答率 74.8%(昨年度74.6%、一昨年度 70.5%)で年々上昇している。(○)	卒業率向上のため努力に期待する。(△) 生徒が充実できる学校生活を送っていると判断できる。(○)

2 組織安定	(1)生徒在校総数1,000人(2027)達成推進 (2)ニーズに応えるコースの追求	・本校の特長を発信。“やる気と元気を引き出す”&コース特長 ・入試広報部と運営委員により構成される「入試委員会」で対外的な募集・広報活動計画と校内における入試説明会、体験入学のプランを策定し、全教職員で内容を共有する。 ・	・選ばれる理由と“仕掛け”を策定 ・新入生 350 名、生徒総数 1000 名を堅持すること。 ・入試説明会、体験入学の参加人数が昨年度の 2765名を上回ること。	・学校行事の見直しや総合的な探究の時間の充実に向けて鋭意検討中である。(×) ・令和5年度の生徒総数は 1008 名 (昨年度 997名 一昨年度1066名) 新入生 401 名 (○) 〈参考〉 令和6年4月の生徒総数は 969 名 新入生 282 名 令和6年度の入学生が激減。 本校受験生の府立併願校の入試動向や奈良県私立高校授業料無償化による受験生の動向を入念に検証して対策を講じる必要がある。 ・令和5年度の学校・入試説明会、体験入学の参加人数は、計 2478 名 (昨年度 2765 名) (×) 昨年度からの取り組み「入試問題の解説」は継続実施。 また体験入学では、「陸上体験」を新設、大学1講座、短大2講座を新たに開設した。(○)	早期の対策に期待する。(△) 新入生の増加は喜ばしい。(○) 努力は認められる。(△)
3 施設・設備等の充実 愛用	(1)生徒本位の施設・設備の整備と愛用(遊休施設活用) (2)配慮を要する生徒支援体制の充実	・「Tama Square」でのクラブ発表などを促進する。 「立教館」の活用促進。 ・特別支援コーディネーターを中心に、合理的配慮が必要な生徒への個別対応を行う。	・活用の状況 ・対応の状況	・吹奏楽部の「お花見コンサート」「たそがれコンサート」、ギター部・ダンス部・和太鼓同好会の「ゲリラライブ」を複数回実施。(○) ・立教館では、「総合的な探究の時間」でクラスが活用したり、体験入学で「書道体験」の会場として利用した。(○) ・合理的な配慮や支援が必要な生徒には支援計画を作成し、保護者とも連携を取った対応を行っている。(○)	活発な取り組みが評価できる。(○) きめ細やかな対応に感謝する。(○)
4 地域共生 愛され成長する学園	(1)地域連携活動の実践	・生徒会美化委員会が主催する、本校の伝統である「美化ボランティア」清掃活動を今年度も実施する。1 回目は全校生徒(希望者)対象で6月上旬実施予定。 ・地域と連携し、青少年講座・スポーツ教室を実施。 ・歴史・科学の青少年講座を実施する。 ・卓球・バレーボール・サッカーのスポーツ教室を実施。 ・地域の市民フェスティバルに参加する。	・計画通り実施する。 ・予定通り参加する。	美化ボランティアは予定通り、6月に実施。(○) ・地域と連携した青少年講座やスポーツ講座はほぼ予定通り実施することができた。「柏原市民フェスタ」にダンス部・和太鼓同好会、「チアファミリーフェスタ」にダンス部、商工会議所青年部新年会に和太鼓同好会が参加。(○)	地域貢献、地域連携は非常に重要(○)
5 学園総合力の向上(学園ファミリー意識) 各校園の相互協力 尊重(職員 学生 生徒 園児)	(1)各校園との連携推進 (2)内部進学の実施(学年30%以上目標) (3)藤蔭会活動の活性化(80周年記念行事の推進)	・学園内大学・短期大学入試ガイダンスを実施する。 ・PTA 主催併設大学・短大見学会を実施する。 ・体験入学での大学・短大講座 ・文化祭における大学・短大の紹介ブースの開設 ・保育進学コースの短大・幼稚園との連携 など、担当者間での連携を密にする。 ・日常の教育活動を通して、本学園のファンを増やす。 ・学園内大学・短期大学入試ガイダンスを実施する。 ・係教員と藤蔭会で検討を進める。	・実施内容と生徒の満足度を基準とする。 ・併設大学・短大への進学者 30%以上	・当初の計画は概ね実施できた。(○) ・卒業生 283 名に対して併設大学・短大への進学者数 84 名(29.7%) (○) (昨年度 27.0%、一昨年度 23.3%)	良好と評価できる。(○) ほぼ目標達成していると捉えられる。(○)

4 学校教育自己診断の結果

学校教育自己診断の結果

(1)学校運営

【教職員】

「建学の精神『感恩』が教職員によく理解され、日々の教育に活かしている」 88.1%

「教学理念『夢と志』が教職員によく理解されている」 83.3%

「学年主任・コース主任制度はよく機能している」 92.9%

【保護者】

「建学の精神『感恩』を保護者はよく理解している」 1年生76.0% 2年生75.3% 3年生76.4%

「教学理念『夢と志』を保護者はよく理解している」 1年生76.7% 2年生72.1% 3年生75.7%

「本校のホームページ・Classiを保護者はよく見ている」 1年生85.5% 2年生87.9% 3年生82.9%

「本校では個人情報保護法の観点から子どもの個人情報管理について十分配慮がなされている」 1年生93.1% 2年生92.6% 3年生95.7%

「施設・設備は充実している」 1年生95.4% 2年生97.4% 3年生95.7%

(2)学習指導

【教職員】

「シラバスに従い計画的に学習指導を実施している」 88.1%

「各コースに応じた学習指導を行っている」 85.7%

「学習面について学力向上のために手厚い指導を行っている」 83.3%

【保護者】

「各コースに応じた学習指導を行っている」 1年生88.9% 2年生90.0% 3年生89.3%

「子どもは学習に対して意欲が高まっている」 1年生56.1% 2年生62.1% 3年生57.9%

(3)進路指導

【教職員】

「生徒が希望した進路におおむね進んでいる」 90.5%

「生徒に対する進路指導は、きめ細くなされている」 88.1%

【保護者】

「子どもに対する進路指導は、きめ細くなされている」 1年生71.4% 2年生77.4% 3年生70.7%

「大学、短大、専門学校や就職等の情報が進路説明会を通じて保護者に対してきめ細かく与えられている」 1年生69.5% 2年生72.6% 3年生70.0%

(4)生徒指導

【教職員】

「生徒指導において、家庭との緊密な連携ができている」 95.2%

「生徒に対して服装の身だしなみ、社会規範(マナー)の順守、挨拶の励行等の指導を日々行っている」 85.7%

「問題行動防止のための早期指導(個人面談、HR指導、初期対応など)に学校全体で取り組んでいる」 88.1%

「文化祭・体育祭等で担任は、生徒と適切に関わりを持ち、指導を行っている」 85.7

「クラブ活動は、全般にわたり活発に行われ、クラブ顧問として十分に指導している」 76.2%

「生徒・保護者等の悩みに誠意をもって対応している」 100%

【保護者】

「生徒指導において、家庭との緊密な連携がなされている」 1年生72.1% 2年生71.6% 3年生72.9%

「本校は生徒に対して服装の身だしなみ、社会規範(マナー)の順守、挨拶の励行等の指導を行っている」 1年生93.1% 2年生88.9% 3年生93.6%

「学校行事について様々な工夫がなされている」 1年生85.9% 2年生85.8% 3年生85.7%

「クラブ活動は全般にわたって活発に行われ、クラブ顧問は熱心に指導している」 1年生71.4% 2年生80.5% 3年生71.4%

「生徒は担任やクラブ顧問等に気軽に相談にのってもらうことができている」 1年生67.6% 2年生71.1% 3年生71.4%

「保護者は担任やクラブ顧問等に気軽に悩みの相談にのってもらうことができている」 1年生66.4% 2年生72.6% 3年生69.3%

(5)その他

【教職員】

「高校生活満足度調査の結果をよく生かし、学校教育に取り組んでいる」 73.8%

【保護者】

「教員はチームワークがとれており、どの教員も一貫した対応をしてもらえる」 1年生64.5% 2年生66.8% 3年生63.6%

「子どもをこの学校に入学させてよかった」 1年生86.6% 2年生93.2% 3年生88.6%

5 学校関係者評価委員会からの意見

【評価された内容】

- ・教学理念「夢と志」には大いに賛同する。保護者が期待するところは「子どもが将来につながる3年間を過ごすこと」。大学名よりも大切なことを学ぶかどうか。
- ・授業アンケートの平均点が毎年高得点であるのには感心している。先生方がかなり努力をされて授業をしている様子がうかがえる。
- ・「学校生活の充実度」の肯定回答率が伸びているところ。
- ・HP は非常に充実している。修学旅行では頻繁に更新していただき感謝している。
- ・少子化の中で新入生が増加しているのは、先生方の日々の活動が評価されているのだと思う。
- ・世間的に評判のいい学校だと思う。
- ・先生との距離が近いと感じる。他校に行った兄弟の時は、学校は放ったらかしで、本人は先生の記憶も残っていないと言っている。
- ・クラブや美化ボランティアなど、積極的に地域への貢献活動に参加してくれてうれしく思う。多くの住民は高校生の活動に期待を寄せている。
- ・楽しくおしゃべりをしながら下校している。下を向いて歩いている生徒は少ない。
- ・大雨の中を傘もささずに登校している生徒を見かけた。何で？と思ったが、ひたすらに学校に向かって歩いている姿には感心した。
- ・共学校らしく、男女仲良く帰っているのをよく見かける。微笑ましい。
- ・昔に比べ、本当にお行儀よくなっている。来校した際には挨拶をしてくれるが、こちらが照れてしまうぐらいである。
- ・毎朝、先生方は正門に立って生徒に挨拶を続けていることには頭の下がる思いである。生徒から挨拶が帰ってこなくても、あきらめずに続けてほしい。
挨拶をしないのは、今は返事ができない状況にあるのだから、いずれは自ら進んで挨拶するようになるので。
- ・幼稚園に実習に来た生徒が Tama Square で遊んでいる園児に「〇〇ちゃん」と声をかけている。園児の危ない行動に注意をしているところには感心した。

【改善が必要な内容】

- ・授業外学習3時間/週の生徒の割合はが低下しているのには残念に思う。特別な対策が必要ではないかと思う。
- ・イヤホンをしている、スマホを見ながら自転車に乗っている生徒をよく見かける。非常に危なく感じる。
- ・女子の生徒が、かばんの取っ手を片方だけ肩にかけているのを見かけるが、中の物が落ちないか心配になる。
- ・ここ2年ほどで原川の桜が軒並み枯れていっている。お花見で学園を開放していただいているので、せめて学園の桜は大切に守ってほしい。

貴重な意見を参考にさせて頂き、保護者や地域の方々の協力も得ながら、教職員全員で課題改善に向け努力して取り組んでいきたい。